

平成 24 年度さが水ものがたり館運営業務委託

成果のまとめ

平成 25 年 3 月

特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

1. 業務の概要

- 1) **業務名** 平成24年度さが水ものがたり館運営業務委託
- 2) **業務期間** 平成24年4月1日～平成25年3月31日まで
- 3) **目的** 本業務は、「さが水ものがたり館」（以下「館」という）において、成富兵庫茂安、石井樋に関する歴史資料及び嘉瀬川流域の防災関連資料等の収集整理・企画展示を行い、佐賀平野の治水・利水について地域住民への周知と理解促進を図ることを目的とする
- 4) **運営目標** 次の運営目標を掲げてさが水ものがたり館を運営した。
 - ① 成富兵庫茂安から現代に続く水の歴史と、水の重要性和怖さを次世代に伝える。
 - ② 防災・減災の技術とシステムについて、地域の人々とともに考え、災害に備える。
 - ③ 「上流は下流に心を配り、下流は上流に感謝する」（宮崎善吾元佐賀県副知事）「水恵無限」（姉川治元嘉瀬川ダム対策協議会会長）を導きの言葉として、嘉瀬川ネットワーク意見交換会などを企画し、嘉瀬川上下流交流に取り組む。
 - ④ 川の魅力を体感できる体験型学習会、防災・歴史ウォーキング等のイベントを開催し、水の魅力と怖さを次世代に伝える。
 - ⑤ 全県的に組織された佐賀水ネットの一員として、嘉瀬川ネットワークの拠点機能の役割を果たす。
 - ⑥ 筑後川、矢部川などの有明海に流入する河川、那珂川、室見川などの博多湾に流入する河川で活動する諸団体との交流を深める。

5) 業務内容

1. さが水ものがたり館の運営：

当初計画通り、月曜休館日（月曜日が祝日の場合は火曜日が休館）を除く週6日、館を開場し、展示物の展示、来訪者への説明、各種イベントの開催、館の清掃等を行った。

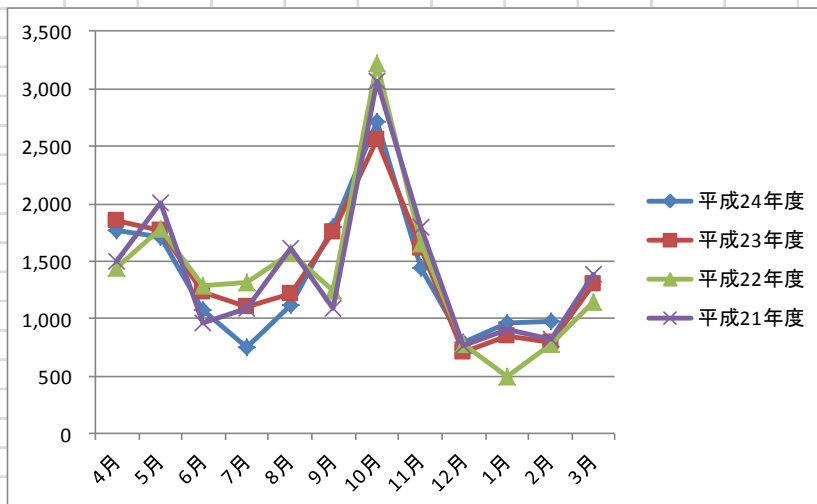
平成24年度の年間総来場者数は、2月までで15,107人で、最近5年間の平均的な来場者数と同程度であった。月別にみると、他の年度に比較して7月の来場者数の落ち込みが大きかったのが心配したが、秋から冬にかけて来場者数が回復し、総数として

は、他の年度と変わらなかった。

予算等の関係で水ものがたり館の主要な展示物は、開館以来一度も替えられていない。展示物目当てのリピーターが期待できるような施設ではないので、館の来館者数の大きな部分を占める小学生の来館者を確実に確保する努力が必要である。これまでは予約が入ることがほとんどなかった冬期（1月～3月）に、小学生の見学が増加している。これは佐賀市教育委員会が、バス費用を負担する制度を設けたせいであるとの情報もあり、これまで佐賀市教育委員会に働きかけてきた成果が実を結びつつあるものと思われる

平成24年度来館者数の過年度との比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成24年度	1,762	1,715	1,079	754	1,123	1,797	2,717	1,436	787	958	979		15,107
平成23年度	1,854	1,772	1,227	1,100	1,220	1,748	2,552	1,605	711	852	786	1,307	16,734
平成22年度	1,439	1,782	1,281	1,321	1,569	1,241	3,218	1,650	777	497	776	1,151	16,702
平成21年度	1,504	2,012	960	1,093	1,613	1,089	3,068	1,799	762	900	814	1,381	16,995



2. 石井樋地区歴史資料収集整理：

石井樋地区の歴史資料を収集し整理する。

○「嘉瀬川交流塾」で歴史テーマを取り上げ、講演資料を公表する

毎月1回テーマを定めて講演をお願いしている嘉瀬川交流塾の平成24年度のテーマとして、①嘉瀬川流域の歴史を学ぶ ②佐賀平野の水問題を考える、③災害に備える、の3テーマを掲げ実施した。表に示すように、歴史が5回、災害が3回、水問題が4回と、参加者の関心の高い歴史に重点を置いて実施してきたことがうかがえる。講演に用いられた配布資料、プレゼンテーション資料は、講演者の承諾を得てすべて収集保存し、資料を請求された方には、無料で配布した。これらの資料はいずれも貴重なものであるので、

次年度以降、公表をどのようなシステムで行うかについて検討し、実施することが望まれる。

○佐賀平野の戦後水利事業を記録する（宮地・正木対談）

趣旨

計画から 40 年を経て、平成 24 年 3 月に嘉瀬川ダムが竣工し、筑後川下流用水事業、佐賀導水事業と続いた佐賀平野水システム再構築事業は、完成を迎え、成富兵庫茂安が治水・利水事業に着手して 400 年、佐賀平野の水システムは新たな広域治水・利水システムに生まれ変わった。

成富兵庫茂安が 400 年前に構築した水システムは、拡充・改変を繰り返しながらも、その基本構造は変わらずに運用されてきた。その水システムを大きく変化させたものは、北山ダム、筑後川下流用水事業、佐賀導水、嘉瀬川ダムと続いた一連の水利事業である。

嘉瀬川ダムの完成を機に、これら一連の事業に企画の段階からかかわってこられた先輩に、その発想の原点、問題となった点、利害調整の経緯等にお話を伺い、記録保存することとした。

日時 6月22日（金）午後3時～午後5時
場所 グラndeはがくれ（希望）
主対談者 宮地米蔵（久留米大学名誉教授） 正木裕美（元佐賀県農林部長）
参加者（予定） 副島孝文（佐賀県県土づくり副本部長） 服部二郎（嘉瀬川交流軸）
川上義幸（嘉瀬川交流軸） 光武富雄（嘉瀬川交流軸）
遠田勝美（嘉瀬川交流軸）
司会進行 荒牧軍治（嘉瀬川交流軸）

対談概要

対談内容を、昭和 20 年以降に実施された水利事業に限定することとし、佐賀平野の基幹水利事業である北山ダム、筑後川下流用水事業、佐賀導水事業、嘉瀬川ダムについて以下の事項について経過をお聞きした。

- ①その事業を始めたいと思った動機及び背景について
- ②その事業推進の初期段階で立ちはだかった障壁について
- ③その事業決定に最も寄与した事項（人、もの、金など）はなんだと思われるか
- ④事業実施中にぶつかった困難にはどのようなものがあるか

対談全部を録音し、活字にして保存した。現在どのように公表するかについて検討している。

3. 郷土学習支援：

郷土の偉人成富兵庫茂安を学びに来訪する小学生を対象に水の歴史と大切さ、怖さを

伝えることを目的に、来訪する小学生を対象に郷土学習の支援を行った。郷土学習支援で話した内容は以下のようなものである。

- 1) 水には、命を奪い、建物を流してしまうような「怖い水」の面と、すべての生物にとっての「命の水」の両面があることを理解してほしい。東日本大震災の被害を大きなものにしたのは、津波と云う「怖い水」であり、避難所に逃げ込んだ人々に最初に配られた水は「命の水」の方である。
- 2) 佐賀平野で考えられる災害の多くは水に関連したもので、これまでも、台風・洪水・高潮などで多くの命を財産が奪われた。
- 3) 生活用水、農業用水を確保するためにこれまでに多くの努力が続けられてきた。今から400年ほど前の武将・成富兵庫茂安は、佐賀平野全体に水を配るシステムをほぼ完成させ、佐賀では「水の神様」として敬われている。
- 4) 成富兵庫茂安が筑後川沿いに構築した「千栗土居」は、佐賀平野と佐賀城下を洪水から守ると同時に、広大な水田を確保することができた。しかし、久留米藩にとっては、自分の藩の方の土地の洪水危険性が増したこととなり、両藩対立の火種となった。
- 5) 茂安は、有明海と佐賀平野を区分する松土居を設計・施工し、海からの高潮被害等を防ぎ、水田を確保した。また、3段のダム・永池堤（ため池）を設けて、白石平野の農業用水を確保したが、その後、江戸時代から、明治大正昭和にかけて干拓事業が続けられて来たため、白石平野は慢性的な水不足に悩まされてきた。それを克服するためにポンプが導入されたが、副作用として広域的な地盤沈下が発生したため、新たな水の確保が必要となり、嘉瀬川ダムが建設された。平成24年3月、嘉瀬川ダムは完成し、6月から白石平野に水が送られるようになった。
- 6) 茂安が松浦川に築いた桃川の馬の頭は、伏越と呼ばれる逆サイフォンの原理を利用したもので、これほど大規模なものは非常に珍しい。
- 7) 取水施設・石井樋は、嘉瀬川左岸に送る水を嘉瀬川から引き込むための施設で、大井手堰、象の鼻、天狗の鼻、石井樋などの施設群からなっている。石井樋は、佐賀藩にとっては命綱なので、洪水や砂の堆積で施設が使われなくなるのを恐れて、様々な工夫が盛り込まれている。

小学生来館者数の推移

小学生の来館者の推移を次表に示す。

		小学校来館者数の推移													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
平成24年度	佐賀市内	来館校数	0	0	2	0	0	7	0	3	1	1	2	3	19
		来館校数	0	0	110	0	0	659	0	89	60	90	97	287	1392
	佐賀市外	来館校数	0	11	5	0	0	7	22	5	2	0	0	0	52
		来館校数	0	604	335	0	0	381	1150	354	74	0	0	0	2898
		来館者数合計	0	604	445	0	0	1040	1150	443	134	90	97	287	4290
平成23年度	佐賀市内	来館校数	0	1	3	3	0	3	1	5	1	1	1	3	22
		来館校数	0	65	133	153	0	131	81	360	38	134	113	126	1334
	佐賀市外	来館校数	0	10	6	0	0	6	24	6	0	2	0	1	55
		来館校数	0	674	315	0	0	448	1174	374	0	44	0	21	3050
		来館者数合計	0	739	448	153	0	579	1255	734	38	178	113	147	4384
平成22年度	佐賀市内	来館校数	0	0	2	0	0	1	3	1	0	0	0	1	11
		来館校数	0	0	82	0	0	10	196	94	20	0	0	49	451
	佐賀市外	来館校数	0	14	5	0	0	7	29	5	2	0	0	0	62
		来館校数	0	656	351	0	0	306	1774	367	115	0	0	0	3569
		来館者数合計	0	656	433	0	0	316	1970	461	135	0	0	49	4020

平成22年から平成23年にかけて、佐賀市外からの来訪者が500名以上減少したのに対し、佐賀市内からの来訪者が451名から1334名と、一気に3倍近く増加した。特に、佐賀市外からの来訪者が途絶える、1月～3月に佐賀市内からの来訪者があり、来訪者増加の要因となっている。この理由として、佐賀市教育委員会が、郷土学習のための交通費を確保し、計画ができたところに配分するシステムを確立したことにより、増加したものと思われる。今後、このシステムが維持できれば、市内の小学校の来訪者数は確保できるものと思われる。一方、市外からの来訪者の10月の来訪者数は、1774名から一気に1174名に、600名も減少している。10月に来訪校が集中するため、時間配分を手配する旅行社が、自由に時間が組めないことを忌避したのではないかと思われる。平成24年度は、市外小学校の来館者数はわずかに減少したが、市内からの来館者数はわずかながら増加している

嘉瀬川交流塾：

表一1に示すような日程で、毎月1回（原則第3土曜日）、嘉瀬川の歴史、自然、治水・利水等について、講話会を開催した。今年度は、次の3つのテーマで企画を行った。

- 1) 災害に備える 4回
- 2) 嘉瀬川流域の歴史を学ぶ 6回
- 3) 佐賀平野の水問題を考える 2回

これまでのさが水ものがたり館の活動内容から、歴史に興味を持つ参加者はいつも多く、根強い人気を有している。東日本大震災以降の防災意識の高まりと、事業発注者の要請に応えるため、防災関係の講話の回数を確保した。

平成24年度嘉瀬川交流塾開講実績			
	日 時	講 師	講 演 題 (案)
第1回	4月22日	荒牧 軍治 (さが水ものがたり館館長)	嘉瀬川流域の歴史を学ぶ① 「嘉瀬川の昔と今ー成富兵庫茂安から現代までー」
第2回	5月20日	服部 二郎 (嘉瀬川交流軸事務局長)	佐賀平野の水問題を考える① 「佐賀平野の農業用水」
第3回	6月17日	金子 信二 (前さが水ものがたり館館長)	嘉瀬川流域の歴史を学ぶ② 「武人 成富兵庫」
第4回	7月21日	荒牧 軍治 (さが水ものがたり館館長)	災害に備える① 「佐賀平野の災害を考える～東日本大震災の教訓～」
第5回	8月18日	今村 瑞穂 (元筑後川河川事務所長)	災害に備える② 「嘉瀬川・筑後川はどんな川か～比較河川学～」
第6回	9月22日	大串浩一郎 (佐賀大学大学院教授)	嘉瀬川流域の歴史を学ぶ③ 「成富兵庫茂安の治水・利水術を考える」
第7回	10月20日	高島 忠平 (徴古館館長)	嘉瀬川流域の歴史を学ぶ④ 「吉野ヶ里弥生人の暮らし」
第8回	11月17日	島元 尚徳 (筑後川河川事務所)	災害に備える③ 「防災マップづくり～佐賀平野大規模浸水危機管理～」
第9回	12月16日	金子信二 (さが水ものがたり館前館長)	嘉瀬川流域の歴史を学ぶ⑤ 「佐賀平野の神様たちの系譜」
第10回	1月20日	荒牧 軍治 (さが水ものがたり館館長)	災害に備える④ 「佐賀で地震が起こったら～軟弱地盤免震～」
第11回	2月17日	服部 二郎 (嘉瀬川交流軸事務局長)	嘉瀬川流域の歴史を学ぶ⑥ 「佐賀平野の干拓史」
第12回	3月17日	荒牧 軍治 (さが水ものがたり館館長)	佐賀平野の水問題を考える② 「有明海で何が起きているのか」

毎回、佐賀市報に開催日時、開催テーマ等の広報記事を掲載して、広く市民に参加を呼び掛けている。市報を見て初めて参加される方もおられて、講演終了後の意見交換会で「このような有意義な講演会を、無料で聞くことができ大変ありがたく思っています」との意見も出るなど、参加者からは非常に高い評価を受けている。終了後にアンケートをお願いし、講演間に対する感想、今後開催して欲しいテーマなどを記載していただき、以後のテーマ設定に利用している。

今年度の参加者一覧を次に示す。40名定員での募集に対し6割程度の参加者にとどまっている。東日本大震災直後に開催した「東日本大震災から何を学ぶか」の講話には、60名近くの参加者があったが、防災関連の講話に対してもそれほどの参加者が確保できていない。1年以上が経過して、防災に対する意識も薄れてきているのかもしれない。固定的な参加者を確保する方法もあるが、わずか40名の会場なので、一般市民の参加を阻害する危険性もあることから、参加者募集の方法については総合的に検討する必要がある。

嘉瀬川交流塾参加者一覧											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	16	21	22	22	23	21	14	26	26	25	

○体験型学習会

■実施概要

嘉瀬川とその流域の河川環境について楽しく学び理解することを目的に、生物環境と歴史環境を中心に、主として石井樋公園及びさが水ものがたり館をフィールドに、合計5回の体験型学習会を実施した

対象者：一般市民・小中学生

第1回：7月29日（日）「トンボ王国さがづくり～トンボを探そう」

東和敬佐賀大学名誉教授を指導者に迎え、佐賀水ものがたり館周辺、多布施川周辺、富士町音無湿原周辺3カ所でトンボに関する現地学習会を開催した。

参加人員22名

第2回：8月19日（日）「子どもの石井樋フェアー川を楽しもう」

NPO法人西日本環境ネットワーク村崎詩園氏をインストラクターに迎え、川を安全に楽しむ方法についての講義の後、ライフジャケットを着用した川流れ、カヌー教室等を行った
参加人数 一般参加者21名＋スタッフ19名

第3回：8月26日（土）「水を科学する」

生物の専門家及び荒牧館長他のスタッフで、水生昆虫の観察、水の力学（浮力・水圧・表面張力など）と藻類の顕微鏡観察を行った。

参加人員14名

第4回：11月11日（日）「嘉瀬川流域の植物探訪」

佐賀植物友の会顧問井上英幸氏を指導者に迎え、石井樋周辺の植物探訪を行い、各自持参したデジタルカメラで撮影後、個人ごとに「マイ植物図鑑」を作成した。

参加人員13名

第5回：12月2日（日）「嘉瀬川の上流から水の流れを考える学習会

『水恵無限を巡るバスツアー』

国土交通省、農林水産省、佐賀土地改良区等の説明を受けながら、嘉瀬川ダム→川上頭首工→さが水ものがたり館→白石平野導水牛津揚水機場→白石平野分水口→焼米のため池を巡るバスツアーを実施し、農業用水がどのように貯えられ、配られるかについて学習した。

参加人員22名＋スタッフ5名

■効果等まとめ

河川環境問題を多角的に学習することを目的に、5回の体験型学習会を実施し、参加延べ人数110名で、1回あたりの参加者数は18名であった。バスツアーは30名で募集したが、他のイベントはスタッフ数、施設・設備を考えて20名で募集したので、ほぼ定員の参加者を得ることができた。

アンケートに見られるようにいずれのイベントも好評で、水に触れあう体験型学習が持つポテンシャルの高さを十分に感じることができた。特に、水を科学する、トンボを探そう、植物探訪と云った生物系のイベントは子供たちに好評で、子供を水環境問題に引き入れるには「生物」から入ることが有効であることが理解できた。

子どもの石井樋フェアで実施した「ライフジャケットを着けた川流れ」は、子供にとってばかりでなく、大人にとっても初めての体験で、水の流れを身体で退官し、流れに逆らわず岸にたどり着くなど得られるものは多かった。水難事故防止の高い効果がみられる学習会であったが、安全確保のため参加者数と同じくらいのスタッフが必要なため、気軽にはできないが、「象の鼻と天狗の鼻を巡る川流れ」は嘉瀬川を象徴するイベントに成長することができそうである。

水恵無限を巡るバスツアーは、これまで佐賀平野を見続けてきた高齢者の方々に好評で、現在の水システムの完成までには多くの人の努力と長い時間が必要であったこと及び嘉瀬川ダムの治水利水効果が十分に理解された。

体験型学習会は、水の持つ多面的な性質を学習するには最も適した方法であり、参加者はおおむね内容を理解できたようなので、今後とも拡充していくことが望まれる。体験型学習会の経験を蓄積し、プログラム内容を充実して、教育機関や各種団体にそのノウハウを伝えることにより、嘉瀬川に多くの人が集まるきっかけとなる。これら体験型イベントを持続的に実施する際の最大の課題は、どのようにして若いスタッフを集めるかである。若いスタッフが積極的に参加しているイベントは、参加者にも活力を与え、次のイベントへと繋がる種子となる。

○地域支援事業：

嘉瀬町水環境復活作戦

■実施概要

地域の水環境を自ら調べ、新たな水環境を創出する活動を行っている佐賀市嘉瀬町自治会及び嘉瀬まちづくり協議会から、森林公園で実施する「蛍復活」に適した水辺景観のあり方についての専門的アドバイスを求められた。このため、嘉瀬川兩岸の嘉瀬町、久保田町の町内会長を中心に、佐賀県佐賀土木事務所街路公園課、森林公園長が参加する準備会を結成して活動を開始した。

9月20日（木） 第1回準備会 森林公園管理事務所

参加者 嘉瀬町・久保田町自治会長、佐賀土木事務所街路公園課長、街路公

園担当主査、さが水ものがたり館館長

10月5日（金） 第2回準備会 さが水ものがたり館

参加者 第1回目と同じ

12月5日（水） 森林公園の水辺景観復活へ向けたワークショップ

参加者 準備会出席者＋嘉瀬町町民＋嘉瀬川交流軸事務局長（合計14名）

■効果等まとめ

当初、鈴木嘉瀬町自治会長から提案されたのは、「森林公園の水路を用いた蛍復活」であったが、蛍復活のためには森林公園内の水路を根本的に見直すべきだとの意見が大勢を占め、12月5日に森林公園管理事務所において「森林公園の水辺景観復活へ向けたワークショップ」を開催した。多くの意見は、森林公園の水路、池等の水は雨水が集まるだけで、河川からの水補給がないことで、水環境が慢性的に悪い状態であることが最大の問題であるとの指摘であった。今後、森林公園内の水路、池にどのような経路で水を供給することができるか、法制的、技術的、財政的見地から十分に検討する必要があるとの見解で一致した。

○その他事業：

事業計画書に記載した事業以外に、佐賀の水に関連した事業を実施した

1. 第26回筑後川フェスティバル in 佐賀

フェスティバルは、「もっと知ろう 筑後川…有明の海 水回廊」をスローガンに筑後川流域（福岡都市圏を含む）の交流と連携を促進することを目的として実施した。なお、今回は、三重津海軍所跡を世界遺産に登録する活動を行っている佐賀県が開催する「世界遺産フェスタ『三重津海軍所跡』」及び佐野常民記念館が開催する「佐野常民没後110周年記念企画展」との同時開催とした。

主催：第26回筑後川フェスティバルin佐賀実行委員会

大会会長 秀島敏行佐賀市長

大会副会長 古賀一彦佐野常民記念館長 篠塚周城佐賀県議会議員

実行委員長 荒牧軍治NPO法人嘉瀬川交流軸理事長

実行副委員長 西原哲彦みなくるSAGA 理事長

大坪宣登佐賀南商工会事務局長

開催日時： 10月20日、21日

開催場所：佐賀市川副町佐野常民記念館周辺エリア

開催した事業内容

オープニングセレモニー 河川交流記念植樹（筑後川・利根川・吉野川）

筑後川「うまかもん市」 有明海沿岸道路シンポジウム 筑後川写真展

九州河川災害ネットワーク交流会議 夜なべ談義 筑後川両岸コンサート
バルーン体験試乗会 吹奏楽&ママさんコーラス 筑後川市民大学講座
筑後川今昔写真展 筑後川クルージング 筑後川・嘉瀬川のゴミを考える会
なお、九州河川災害ネットワーク交流会議と筑後川・嘉瀬川のゴミを考える会の両会議においては、筑後川フェスティバルの実行委員長であり、NPO法人嘉瀬川交流軸理事長の荒牧軍治がコーディネーター役を務め、会議全体を進行させた。

また、「第26回筑後川フェスティバル in 佐賀」事業の一環として久留米市長・佐賀市長を中心とする座談会を開催した。

座談会出席者（順不同）

秀島 敏行（佐賀市長 第27回筑後川フェスティバル 大会委員長）
檜原 利則（久留米市長 第26回筑後川フェスティバル 大会委員長）
渡部 秀之（国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所長）
佐藤 幸甫（社団法人北部九州河川利用協会 理事長）

コーディネーター

荒牧 軍治（筑後川フェスティバル in 佐賀 実行委員長）

オブザーバー

駄田井 正（NPO法人筑後川流域連携倶楽部 理事長）
山本 隆利（社団法人北部九州河川利用協会 専務理事）

2. 「24. 7北部九州水害におけるボランティア活動の実態調査」の実施

24. 7北部九州集中豪雨災害で経験したボランティア受入の問題点を整理し、今後の災害に備えることは非常に有用であるとの認識に立ち、大学関係者、河川NPO団体関係者で調査団を結成し、学術的調査に基づく分析に加えて、今後のボランティア活動への提言を行った。

調査は、佐賀大学及び久留米大学の関係者を中心に、筑後川連携倶楽部、北部九州河川利用協会等の担当者を日田市、八女市、柳川市、久留米市、阿蘇市等の社会福祉協議会を中心に、ボランティアの受入・派遣に当たられた担当者に聞き取り調査を行い、問題点の整理と今後のボランティア活動へ向けた提言を取り纏めて、九州災害時救援・支援ネットワーク構築の基礎資料とした。

第1回調査： 9月3日（月）9月4日（火）

社会福祉協議会（久留米市、柳川市、浮羽市、日田市、阿蘇市）
市役所防災担当者（八女市、日田市）

第2回調査： 9月19日（水）

筑後川河川事務所
大学関係者（金子好雄東海大学准教授、渡辺亮一福岡大学准教授）

聞き取り項目

受け入れ側の状況

- 2012年に発生した筑後川・矢部川水害の概要、被害状況と時間経過
- 水害対策に当たった行政（市町）の取り組み状況
- 被害者宅のボランティア受入要望の有無
- ボランティア受入に当たり準備した事項（宿泊設備、食事、活動のための道具など）
- ボランティアに依頼した任務、今後頼みたい任務
- ボランティアの評価（プラスに評価する点、マイナス評価の部分）
- 災害ボランティアネットワーク確立の必要性
- 災害ボランティアネットワークが備えておかなければならない要件

派遣側に希望すること

- 派遣ボランティアの条件（年齢、男女別など）
- 派遣ボランティアが準備しておくべき事項【装備、保険証など】
- ボランティア派遣に持参させるべき資金の額
- 平常時における連絡体制（責任者）

3. 「秋の収穫 嘉瀬川ダム感謝祭」の実施

本年3月、嘉瀬川ダムが完成し、6月には白石町への通水が開始された。1800年に完成した焼米のため池の水の受益者である白石町の農家から、移転を余儀なくされた方々に、今でも毎年秋の稔りが届けられている故事に倣い、嘉瀬川ダムの水の恵みが白石平野にもたらされたことに感謝し、白石平野で収穫された秋の実りと、白石町の個性的文化である餅つき（餅すすり）と鉦浮立を、富士しゃくなげ湖畔に建つ「水恵無限」の碑の前で神様に奉納し、嘉瀬川ダムに感謝する祭りを白石町とNPO法人嘉瀬川交流軸で企画し、実施した。

神事： 祝詞奏上、玉串奉奠等（白石町の実りを捧げる）

「秋の収穫 嘉瀬川ダム感謝祭」

開会の辞

感謝の辞 片渕 弘晃（白石町長 実行委員会委員長）

歓迎の辞 音成 幸雄（嘉瀬川ダム対策協議会会長）

参加者挨拶

白石町餅つき奉納

浮立奉納

閉会の辞

富士町・白石町交流会

餅つき（餅すすり）実演（白石町担当）

タマネギ、レンコン、山菜の天ぷら、猪肉・野菜のバーベキュー

6) 打ち合わせ協議

実施計画書に従い、本業務を円滑に実施するために、平成24年4月より2か月に1度、及び事業最終月の平成26年3月、合計7回次の事項について委託者と打ち合わせ協議を行う。

1. 事務局員の勤務状況及び業務内容
2. 館の利用状況
3. イベント等の実施状況
4. その他の必要な事項

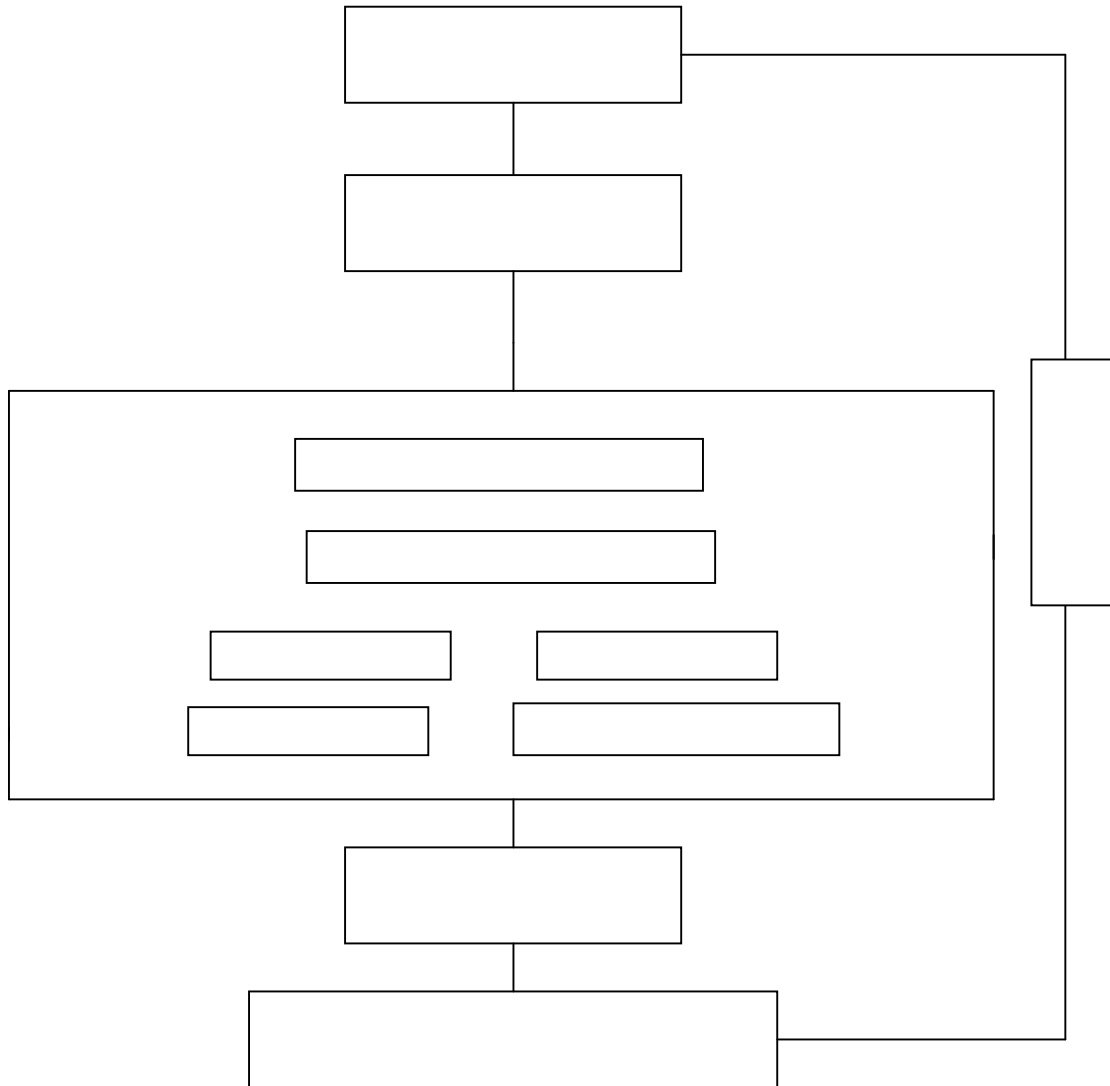
7) 業務工程

実施計画書に示した業務工程表に従って業務を実施した

業務工程表							
検討項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	備考
	業務計画策定	●●					
打ち合わせ協議	●●		●●		●●		
1) さが水ものがたり館管理	●	●	●	●	●	●	常時
2) 歴史資料収集	●	●	●	●	●	●	随時実施
3) 郷土学習支援	●	●	●	●	●	●	随時実施
4) 嘉瀬川交流塾	●●	●●	●●	●●	●●	●●	
5) 体験型学習会				●●	●●	●●	
6) 地域支援事業			●●				

検討項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	業務計画策定						
打ち合わせ協議	●●		●●		●●	●●	
1) さが水ものがたり館管理	●	●	●	●	●	●	常時
2) 歴史資料収集	●	●	●	●	●	●	随時実施
3) 郷土学習支援	●	●	●	●	●	●	随時実施
4) 嘉瀬川交流塾	●●	●●	●●	●●	●●	●●	
5) 体験型学習会		●●					
6) 地域支援事業		●●	●●		●●		
報告書作成						●●	

8) 業務進行のフローチャート



9) 成果品

業務の成果品として、次の書類を、委託者に提出する。

- 1) 運営報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 式
- 2) 成果報告書（実施計画に従って実施した事業）・・・・・・・・ 1 式
- 3) 成果報告書（CD-R）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 式
- 4) その他調査職員が指示する資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 式

10) 業務実施体制

本業務は、以下の体制で実施した

受託法人： 特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

〒849-0203 佐賀市久保田町新田 3714 番地 5

電話 0952-68-3094 Fax 0952-68-3097

設立 平成 23 年 8 月 2 日 会社法人番号 3000-05-005962

運営責任者： 荒牧 軍治（NPO 法人代表） 業務の総括・企画・運営

週 4 日程度、さが水ものがたり館に常駐し、小学生への説明、イベント実施に当たる

スタッフ 1： 服部 二郎（NPO 法人事務局長） 業務の企画・運営

週 2 日程度、さが水ものがたり館で業務に当たった。

イベント企画・実施 歴史資料収集整理の責任者

スタッフ 2： 宮崎 順子（NPO 法人職員） 業務の企画・運営

週 5 日程度、さが水ものがたり館で業務に当たった。

イベント企画・実施

上記スタッフ以外に、さが水ものがたり館の管理補助及びイベントの運営に当たっては、学生等アルバイト及びNPO 法人理事・会員を参加させた。